



BCJ-審査証明-208

建設技術審査証明書 (建築技術)

技術名称：建築物の外壁補修技術
「エクセルピンネット工法」

標記技術の内容について依頼者より提出された開発の趣旨及び開発の目標に基づき証明するものである。

(開発の趣旨)

既存コンクリート建築物において、経年劣化したタイルやモルタルの外壁仕上げ層を撤去することなく、ピンネット工法により被覆保護することで、その落下事故を未然に防ぎ社会資産である建築物を維持保全する。

(開発の目標)

- (1) 外壁補修技術として新たに施工するガラスメッシュ入りポリマーセメントモルタルの既存下地への接着強度が 0.4 N/mm^2 以上とする。
- (2) 温冷繰り返しや凍結融解によりポリマーセメントモルタルの既存下地への接着強度が 0.4 N/mm^2 未満に低下したり、ひび割れを生じないものとする。
- (3) 既存壁に打ち込まれたアンカーピンは、施工時はもとより温冷繰り返しによっても、下地コンクリートが健全である限り 3.0 kN /本以上の引抜き強度を有し、落下に対する安全を確保できるものとする。
- (4) 既存の仕上げ層を撤去することなく、建築廃材の発生を抑制する補修技術を確立する。
- (5) 適切な施工マニュアルを定めるとともに、施工管理技術者を育成し、責任施工体制を確立する。

一般財団法人日本建築センターの建設技術審査証明事業（建築技術）業務規程及び約款に基づき、依頼のあった建築物の外壁補修技術「エクセルピンネット工法」の技術内容について下記のとおり証明する。

2014年1月27日



建設技術審査証明協議会会員
一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

理事長 松野 仁

記

1. 審査証明結果

本技術について、上記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) 外壁補修技術として新たに施工するガラスメッシュ入りポリマーセメントモルタルの既存下地への接着強度が 0.4 N/mm^2 以上であると判断される。
- (2) 温冷繰り返しや凍結融解によりポリマーセメントモルタルの既存下地への接着強度が 0.4 N/mm^2 未満に低下したり、ひび割れを生じないものと判断される。
- (3) 既存壁に打ち込まれたアンカーピンは、施工時はもとより温冷繰り返しによっても、下地コンクリートが健全である限り 3.0 kN /本以上の引抜き強度を有し、落下に対する安全を確保できるものと判断される。
- (4) 既存の仕上げ層を撤去することなく、建築廃材の発生を抑制する補修技術を確立しているものと判断される。
- (5) 適切な施工マニュアルを定めるとともに、施工管理技術者を育成し、責任施工体制を確立しているものと判断される。

2. 審査証明の前提

本審査証明は、依頼者から提出された資料等には事実と反する記載がなく、依頼者の責任において適正に設計・施工・品質管理等が行われることを前提に、依頼者から提出された資料に基づいて行われたものである。

3. 審査証明の範囲

審査証明は、依頼者より提出された開発の趣旨及び開発の目標に対して、設定された確認方法により確認した範囲とする。なお、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は審査証明の範囲に含まれない。

4. 審査証明の詳細 (別添)

この審査証明技術を個々の工事等へ適用する際は、別添内容に従うこと。

5. 審査証明の有効期限 2019年1月26日

6. 審査証明の依頼者

東邦レオ株式会社

住所 大阪市中央区上町一丁目1番28号